

科目名	成人看護方法Ⅳ(看護演習) Adult Nursing IV		担当教員 (研究室番号)	長谷川 智之(308) 関根 由紀(504) 脇坂 浩(306) 玉田 章(307)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	長谷川:tomoyuki.hasegawa@mcn.ac.jp 関根:yuki.sekine@mcn.ac.jp 脇坂:hiroshi.wakisaka@mcn.ac.jp 玉田:akira.tamada@mcn.ac.jp					
履修年次	3年次前期	科目区分	専門科目・生涯看護学		選択区分	必修	単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	科目等履修生	否
										オープンクラス	否	
科目目的	成人看護学概論および成人看護方法Ⅰ・Ⅱの授業を踏まえて、周手術期にある患者の看護過程を展開し、問題を解決するために必要な思考過程を学ぶ。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
	関連するDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。(知識・理解)										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 事例患者の情報をゴードンの機能的健康パターンに分類し、術後の過程を予測することができる。 ゴードンの機能的健康パターンを用いて、事例患者の情報を解釈・分析することができる。 各機能的健康パターンの解釈・分析から問題を抽出し、優先順位が決定できる。 各問題において、アセスメントに基づき長期および短期目標を設定し、目標達成が可能な具体的な計画が立案できる。 計画に基づき、術後患者に対する全身状態の観察および離床の援助方法を検討することができる。 事例患者の術後の情報をを用い、看護実践の結果と評価を記述することができる。 自己学習を基にグループワークや事例検討会に参加し、積極的な意見交換ができる。 											
成績評価方法(基準)	課題成果(86%)、課題進捗状況(14%)											
再試験の有無と基準等	本科目の評価は、看護過程に関する課題と課題進捗状況で行うため、再試験を行わない。											
教科書	指定なし。必要な資料は各自で調べる。											
参考書等	NANDA-I看護診断 定義と分類2018-2020(購入必須ではない。本学生協で電子辞書を購入した学生は、インストールされているため電子辞書を持参することが好ましい。)											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	本科目は、グループディスカッションを通して、周手術期にある患者の看護過程を展開することが中心となります。主体性と論理的思考を基盤に、成人看護に必要な知識と技術を確実に身に付けてください。											
備考	先修条件:基礎看護方法Ⅰ～Ⅳと成人看護方法Ⅰ・Ⅱの単位を修得している。											
回	学習項目				学習内容				担当教員	授業方法		
1回	看護過程の展開 ゴードンの機能健康パターン 看護診断				看護過程の展開について ゴードンの機能健康パターン、看護診断ハンドブックの概説				関根他	演習		
2回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅰ 解釈・分析①				解釈・分析のための基礎知識 健康管理・健康知覚における「情報分類」を基に「解釈・分析」を行い、グループディスカッションを行う。				長谷川他	演習		
3回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅰ 解釈・分析②				解釈・分析のための基礎知識 排泄パターンにおける「情報分類」を基に「解釈・分析」を行い、グループディスカッションを行う。				長谷川他	演習		
4回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅰ 解釈・分析③				解釈・分析のための基礎知識 栄養・代謝パターンにおける「情報分類」を基に「解釈・分析」を行い、グループディスカッションする。				関根他	演習		
5回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅰ 解釈・分析④				解釈・分析のための基礎知識 活動・運動パターンにおける「情報分類」を基に「解釈・分析」を行い、グループディスカッションする。				関根他	演習		
6回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅰ 解釈・分析⑤				解釈・分析のための基礎知識 認知・知覚パターンにおける「情報分類」を基に「解釈・分析」を行い、グループディスカッションする。				長谷川他	演習		
7回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅰ 解釈・分析⑥				解釈・分析のための基礎知識 睡眠・休息、役割・関係パターンにおける「情報分類」を基に「解釈・分析」を行い、グループディスカッションする。				長谷川他	演習		
8回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅱ 問題抽出～優先順位の決定①				各パターンの「解釈・分析」を基に「問題抽出」を行い、グループディスカッションする。				関根他	演習		
9回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅱ 問題抽出～優先順位の決定②				「問題抽出」を基に、「優先順位の決定」を行い、グループディスカッションする。				関根他	演習		
10回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅲ 目標設定、計画立案①				目標、計画を立案するための基礎知識 抽出された問題の「目標」について、グループディスカッションする。				長谷川他	演習		
11回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅲ 目標設定、計画立案②				「目標」を達成するために必要な「計画立案」を行い、グループディスカッションする。				長谷川他	演習		
12回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅳ 計画(看護手順)に基づいた看護援助の実践①				立案された計画を基に、術後の看護援助を実践し、術後患者の全身状態の観察および回復の促進に必要な看護援助を学ぶ。				長谷川他	演習		
13回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅳ 計画(看護手順)に基づいた看護援助の実践②				立案された計画を基に、術後の看護援助を実践し、術後患者の全身状態の観察および回復の促進に必要な看護援助を学ぶ。				長谷川他	演習		
14回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅴ 結果～評価①				看護援助の実践を踏まえて、「結果」と「評価」を行い、グループディスカッションする。				関根他	演習		
15回	周手術期にある患者の看護過程の展開Ⅴ 結果～評価②、まとめ				看護援助の実践を踏まえて、「結果」と「評価」を行い、グループディスカッションする。				関根他	演習		

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
学 習 課 題				
<p>1回目課題（事前）：看護過程について復習。看護診断ハンドブックの見方について調べる。</p> <p>2・3回目課題（事前）：事例における健康管理・健康知覚、排泄パターンに必要な情報を記述する。</p> <p>4・5回目課題（事前）：事例における・栄養・代謝、活動・運動パターンに必要な情報を記述する。</p> <p>6・7回目課題（事前）：事例における睡眠・休息、認知・知覚、役割・関係パターンに必要な情報を記述する。</p> <p>8・9回目課題（事前）：事例における自己知覚・自己概念、コーピング・ストレス耐性、価値・信念パターンに必要な情報を記述する。</p> <p>10・11回目課題（事前）：抽出した問題に対する目標を記述する。</p> <p>12・13回目課題（事前）：立案した計画から術後患者の全身状態の観察および離床の方法を記述する。</p> <p>14・15回目課題（事前）：計画の実施、評価、修正を行う。 （事後）：事例患者の看護過程をファイルにまとめレポート課題として期日までに提出する【評価対象】。</p>				

実務経験を活かした教育の取組

<p>・担当教員全員は、看護職として実務経験、特に周手術期看護の経験がある。また、看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本科目の演習を行う。</p>
